

令和 5 年度  
高大連携活動報告

## 高大連携ワークショップ（11月8日）

2023年11月8日（水）10:40-13:40に、國學院高校の現2年生を対象とした高大連携ワークショップを國學院大學の2302教室にて実施した。

これまでも高大連携授業の一環として「リーダシップ基礎」の授業や「ゼミ」の体験・見学をしており、今回の高大連携ワークショップはその第3弾にあたる。今回のワークショップは2部制で行い、第1部では「高校生のうちから『大学の学び』や『大学生像』を体験してもらい、進路選択に活かしてもらおう」ことを目的にグループワークを中心とした授業を行い、第2部では渋谷キャンパスの見学と学食体験を行った。参加した高校生は計23名であった。



このワークショップは3～4人1組のグループワークを主体とし、グループに1名の大学生アシスタントをつけた。高校生は初めから積極的に意見交換を行い、終始活発なグループワークを行うことができた。ワークショップ終了後に実施したアンケート結果からも、「高校の卒業生の大学生活は楽しそうでしたか？（※1が最低、5が最高）」という設問に回答者全員が「4あるいは5」と回答し、参加者全員が目的を達成できたと考えられる。

問8 高校の卒業生の大学生活は楽しそうでしたか？（※1が最低、5が最高）

21件の回答



### 後記（感想）

このワークショップは学生アシスタント全員が國學院高校の卒業生であり、同じ高校出身の先輩が楽しく大学生活を送っている姿を見て、大学進学への期待が高まったようだった。

私も3年間学生アシスタントとして携わったが、國學院大學に進学したことで得た学びや経験を後輩に直接伝えられたことが嬉しく、今後もこのワークショップを機に國學院大學への進学を希望する國學院高校の生徒が増えることを期待したい。（経営学科4年 島田莉那）

# 高大連携授業(リーダーシップ基礎・12月18日)

## －第11回ファシリテーションの実践－

12月18日、毎週月曜3・6限に行われている「リーダーシップ基礎」の授業に、國學院高校1年生計26名が参加した。

今回実施したのは「ファシリテーションの実践」。様々なお題を前にして、議論を促進させる、課題を解決するためのサポートをする、といったことをファシリテーションという。

リーダーシップ基礎の基盤である、「学んだことを実践する」ことを重視し、大学生が率先して、高校生と協働しグループワークを行った。今回は特に、メンバーからの意見を引き出すというスキルについて学び、提示されたお題について、ワークを通して実践してもらった。

### ファシリテーターの役割



### ファシリテーターに求められるスキル

- ①場ならし
- ②引き出す
- ③見える化する
- ④まとめる

最初は緊張気味だった高校生も受講生も、グループワークをとして楽しそうにファシリテーションを学んでいたことが印象的だった。FA 全員で助け合い、高校生・受講生、クラス全員で授業を創り上げられている点が、他の授業では見受けられない良さの一つであると、改めて感じさせられる日だった。

	積極的にやろう	注意しよう
態度で伝える	・アイコンタクト ・うなづき、あいづち ・メモをとる	・沈黙を恐れない ・非言語メッセージ
理解を言葉で伝える	・繰り返し ・要約	・先走りしない
受容を言葉で伝える	・気持ちはわかる ・状況はわかる	・同情ではない

### 後記(感想)

高大連携は容易なことではない。大学生も高校生も分け隔てなく学ぶことができる、当たり前のように当たり前でないこの貴重な機会を、最大限活かしてほしい。全員が授業を楽しんでいる姿が純粋に嬉しかった。大学生になったらぜひ、リーダーシップ基礎を受けてほしい。

(経営学科2年 浅田桃香)

(経営学科2年 上ノ園美滯)

## 高大連携キャンパスツアー（12月18日）

2023年12月18日（月）の4限（14:30～16:00）に、國學院高校の1年生を対象に、大学生活を体験する高大連携のキャンパスツアーを実施した。渋谷キャンパス内の神殿、2101教室、図書館を周り、最後には学食体験を実施し、各々メモリアルレストランのメニューを堪能した。また、学生アシスタントとの交流を通して、大学生活への理解についても理解を深めた。参加者は40名であった。なお、参加者の高校1年生は、高大連携授業の一貫として3限（12:50～13:20）に実施された「リーダーシップ基礎」の授業や5限（16:00～17:00）に実施された「ビジネスゲーム」の授業も受講した。



参加した高校生から「教室広い」や「校舎すごい、きれい」などの声があり、今回のキャンパスツアーを通じて、アクティブラーニング以外の授業や大学生活そのものについても理解を深めてもらう事が出来たと思う。



### 後記（感想）

今回のキャンパスツアーを通じて、國學院大学には様々な魅力があることを知ってもらったと思う。今後ともこのような機会を設けていきたい。

（経済学科2年  
中田かれん）

# 高大連携授業（ビジネスゲーム、12月18日）

12月18日、毎週月曜5限に行われている「ビジネスゲーム」の授業に、國學院高校の1年生36名（2クラス合計）が対面にて参加した。グループワークが中心のアクティブラーニングを体験しつつ、企業のリアルな経営戦略について楽しく学んでもらえた。

第11回となる今回の授業テーマは「ペルソナマーケティング」であった。消費者をセグメントに分けた上で具体的なペルソナ像を作成し、深層のニーズに対してどのような商品・サービスの提供が必要かを議論した。既存企業の分析をもとに、ゼロからペルソナを作成するため、大学生が高校生ならではの視点に気づかされていた姿が印象深い。

## ビジネスゲーム 第11回

商品開発をしよう

### ②ペルソナ・マーケティング



今回の高大連携授業において、高校生が意欲的に発言をしていたことが特に印象に残っている。通常の授業とは異なる雰囲気、大学生も積極的に高校生から意見を引き出す工夫をしている姿が見受けられ、活発な意見交換が行われていた。

究極の顧客像を構築せよ：「ペルソナ」マーケティング

名前や住所、年齢、性格、趣味、ライフスタイルに至るまでのプロフィールを細かく定めた架空の人物像にターゲットを絞り込む。商品・サービスの開発やマーケティング活動について、こうした取り組みを始めるといった企業が増えつつある。



日経情報ストラテジー(2007)38~48頁。

ワーク②：ペルソナ・マーケティング  
を考える



1. 前回のSTP分析のうち、セグメンテーションで整理した来客店のセグメントの中から、メインターゲットとすべきものをグループで話し合って1つ選んでください。

1. 目安  
5分

2. ペルソナ・マーケティングに関して、

- ①写真(イラスト)
- ②プロフィール
- ③ペルソナの特徴(ニーズ)を表す一言
- ④ニーズの背景となる日常生活の記述
- ⑤特定の〇〇へのニーズやよく買う商品を当てはめ、シートに記入してください。  
⇒現時点で考えていない/曖昧なものも、なるべく具体化してみましょう。

2. 目安  
12~14分

■大学生の中でファシリテーター、タイムキーパーを決めてください。  
(ワークごとに役割を変えてみてください。)

## 後記(感想)

この高大連携授業を通して、高校生と大学生が一つの課題に向けて楽しみながら取り組んでいる姿を見ることができて、改めてアクティブラーニング授業の存在意義を感じることができた。活発的な意見交換によって新たな価値観を手に入れたことは高校生と大学生の両者にとって貴重な経験であったらう。

従来の受動的な授業では得ることができない、アクティブラーニングならではの積極性・能動的な学習スタイルを、是非ともこれからの実生活に活かしてほしい。

(経営学科2年 石川葵)

## 令和5年度・國學院高校との高大連携授業を振り返って

令和5年度担当教員 中田有祐

経済学部では、國學院高校との「高大連携授業」を行っています。この取組みでは、単発の模擬授業等ではなく、より長期的に高校生に大学の授業等に参加してもらい、さまざまな角度から大学で学ぶ意義を考えてもらえるような日程・内容構成をとっています。

この取組みの目的は、附属高校と大学との関係を活かした長期の取組みを行うことで、経済学部を志向する國學院高校の学生を増やすとともに、高校、大学、さらには法人全体としてのブランド力強化に繋げることにあります。

高大連携授業は、高校1年次に以下の①へ参加し、さらに2年次に②と③までのイベントへ参加する形で行われます。本年度の実施日程・内容は次のとおりです。

- ① 学部専門科目の授業への参加（対象：高校1年生、令和5年12月）
- ② 専門演習（ゼミ）への参加（対象：高校2年生、令和5年6月）
- ③ まとめのワークショップの開催（対象：高校2年生、令和5年11月）

※イベントの詳細は、各イベントの報告書をご参照ください。

本年度においても、各イベントの準備・実施は概ねスムーズに行われ、また参加者に対するアンケート結果も極めて好評でした。高校からもこの取組みを継続したい旨のご要望を頂いており、次年度も引き続き力を入れて取り組んでいくことが望まれます。

※専門演習への参加のみ、報告書を別途作成しておりません。概要を以下に記します。

令和5年6月12日から7月7日にかけて、高校生40名が10ゼミに参加しました。1名につき2ゼミ（経済分野と経営分野1ゼミずつ）に参加する形を取り、ゼミで学ぶ意義、ゼミでの学び方、分野ごとのゼミの内容を体感して頂きました。